

会 議 要 旨

会議の名称	令和3年度 川越市産業振興審議会（第2回）
開催日時	令和4年1月21日（金） 午前10時00分 開会 ・ 午前11時30分 閉会
開催場所	川越市役所7B会議室
議長（会長） 氏名	会 長 新津 重幸
出席者（委員） 氏名（人数）	副会長 小谷野 和博 委 員 上野 博 委 員 真鍋 伸次 委 員 竹澤 穰治 委 員 中島 啓亨 委 員 高崎 正夫 委 員 山中 亨 委 員 松山 潤 委 員 宮岡 寛 委 員 村川 はつ枝 10人
欠席者（委員） 氏名（人数）	委 員 島田 裕二 委 員 中野 英幸 委 員 加藤 榮壽 委 員 中山 昌克 4人
事務局職員 職名・氏名	産業観光部 部 長 粟生田 晃一 副 部 長 飯野 英一 産業振興課長 中 孝 雇用支援課長 今井 真人 産業振興課 副 課 長 町田 純一 副 主 幹 長谷 正昭 副 主 幹 廣川 慎司 主 査 五味 弘企 主 査 牛窪 太亮
傍聴人（人数）	なし
会議次第	1 開 会 2 議 題 (1) 次期「川越市産業振興ビジョン」の素案について 3 そ の 他 4 閉 会
配布資料	○川越市産業振興ビジョン（令和4年度～令和7年度）

議 事 の 経 過

議事は、会議次第に沿って進行された。

「議題」については、事務局から説明後、出席者による自由討議が行われた。

討議の概要は、以下のとおり。

○ 議 題

1 次期「川越市産業振興ビジョン」の素案について

事務局が資料に基づき説明。

[発言内容]

(会長) 事業者の問題として、後継者がいないというのはどこかに入れてほしい。

また、申請のサポート、創業やM&Aの推進などもどこかに入れられないか。

さらに、SDGs、地域支援、サブスクリプションの問題について、一社で出来なければ共同でやる、全体の連携をとるといふ、商業間や産業間の連携について協力いただけるような支援もどこかに入れてほしい。

(副会長)「産業振興ビジョン(案)」は網羅的だが、川越市の特徴を出せるところがないと思う。他市とどのように差別化して、川越市の特色をいかしていくのか。

また、コロナで社会の構造が大きく変化しつつある状況の中で、川越市の産業をどうしていくか。新しい社会に対する新しい産業や新しいものが発信できるようなことを支援していくという仕組みが必要ではないか。

(委員) ビジョンというのは、未来から見た現在をどうとらえるか。未来の川越がどうなっているかというのが、具体的に視覚的に出てくるのが大事だと思う。産業振興ビジョンを考える際にも、現状よりも将来このような形で幸せになるということを明確な形で出して頂ければと思う。

今まで産業というと、インダストリアルという英語で工業化と訳して、工業を中心にしていたが、今後は情報化、ネットワーク化、サービス化に重点を置いた形で産業振興を考えていく必要がある。産業の構成もサービス業が7割を超えている。サービス業に力を入れるということではなく、農業や工業の分野でもサービス化、情報化は進んでいくと思う。そういうことを念頭にしながら、考えてほしい。

(委員) 54 ページの数値目標の創業支援件数の数値、その下にある新規の開業事業所数の数値について、算出方法を教えてほしい。

(事務局) 創業支援件数は、川越市、川越商工会議所、創業・ベンチャー支援センター埼玉等の創業支援事業所における相談件数の合計となっている。開設事業所数は、経済センサスの数値を用いている。

(委員) 創業支援件数は、現況値と目標値がほぼ横ばいだが、最近は創業したいという方が非常に多いので、もう少し目標値を増やしてもいいのではないかなと思う。

開業よりも廃業が多くなっている状況で、川越は中小企業が多いことから、開業を増やしていくという意味ではもう少し目標値を増やしてもいいのではないかな。

(委員) 59 ページの小売業商品販売額は、現況値と目標値が全く同じになっている。現状維持という解釈だと思うが、算出方法を教えてほしい。

(事務局) 小売業商品販売額は、埼玉県の統計年鑑からの数値である。埼玉県の統計年鑑は、経済センサスの数値を用いている。最新のデータが出ていない中で、総合計画でもこの数値目標を設定しているので、それに合わせている状況である。

(委員) 大規模店舗の数値も入っているのか。小売店舗の売上は、かなり減っていると思う。そこを踏まえると、平成 28 年と同じ数字では逆に難しいと思う。

(事務局) 数値目標は、例えば計画期間の平均値にするとか、累計にするといったこともあるので、どういった数値にすればいいのか、さらに検討していきたい。

(委員) ビジョンを策定していくうえで、そこに向かっていく目標というのが重要になってくる。目標が曖昧だと、施策内容も現実的なところが見えなくなると思う。

また、新しく創業したい、今までの雇用形態とは変わるような新しい働き方をしたいという若者が増えている。今、情報化社会の中で、問屋等を通さなくて、小売業が自分たちの力で販売しているというも増えている。

(委員) 2050 年のカーボンニュートラルの取組については、何らかの形で触れておいた方がいいと思う。今、世界では環境の取組に対して注目されていますし、何らかの形で川越が先手を切って、そういう取組をしていく。具体的に言えば、カーボンニュートラルの場合は、エネルギーの循環であるとか、社会全体が関わっていかなければならないということもある。これをビジネスチャンスとし、こうした分野に投資していただくことで、企業も新しいビジネスや発展が出来ると思う。

(委員) データの欄外にある注釈を見ると、出典が国や県となっているものが多い。そのため、しばらく経たないと数値が分からないような状況ではないかと思う。川越市で管理できるようにするなど、なるべく最新のデータが反映できるようにしてほしい。

(委員) 川越ならではのことを打ち出していくといいのではないかと思う。具体的に川越ならではのとは何かというのは難しいが、川越は地元を愛していて、地域活性化に取り組んでいる方がすごく熱いと思う。市民、農家、事業主も含めて地域愛が濃い。それを活かす方法として、地域資源や連携というのがキーワードになる。

また、地域課題解決をビジネスにというケースが非常に多くなっていて、これを商店街だけに限定するのはもったいないし、一人では出来なくて、連携して行うケースも多々あるので、これを推進していくような言葉が入ってもいいと思う。

(委員) 海外を意識した記述もある中で、その割には施策内容では海外に向けたものは少なく感じる。観光客に来ていただくということも海外から選ばれるということだと思うが、川越のものを海外に発信していく、輸出していくということも、海外に選ばれるということだと思うので、そのために何か事業者をサポートする仕組みがあるといいのかなと思う。産業フェスタにはさまざまな事業者が来ると思うので、海外へ輸出するにあたってのつながりを持っていただくようなことが出来ればいいと思った。

また、M&A は事業継承とも関わってくるので、入れた方がいいと思う。一方で、M&A はナイーブな面もあるので、行政や商工会議所も関わりながら取組について発信するような形をとっていただけると意味があると思う。

(委員) 川越市の人口は、微増だが伸びていることは素晴らしいことだと思う。その中で、なぜ川越に引っ越してきたのか。そのあたりが分かると、それぞれの目標において何に取り組むべきか、また違った見方が出来るのではないかと思う。

(委員) 空き工場や空き工業用地について、企業を誘致することで税収を増やし、困っている子どもたちに援助できるような状態を作っていたら、住みよい川越ということになるのではないかと思います。

(委員) 今、コロナの状況で非常に苦労していると思うが、いずれコロナは終わる。コロナを機に、生活と仕事のワーク・ライフ・バランスを顕著に実感として考えるようになったのではないかと思います。オンラインで会議をするようになり、直接会う必要はないのではないかと感じている。企業によっては、自宅で仕事をさせるという企業も出ており、本社自体を構えないという会社も出ている。市内にリモートで仕事ができる施設みたいなものを、例えば図書室や空いている店舗等に協力していただくなど、そういった施設を設けられるような仕組みを作ることはできないか。

また、商店街の発展に関して、非常に良くなってきていると思うが、線的な改善に留まっている感じがする。川越市は、非常に魅力的な観光資源・歴史的資産がたくさんあるので、周遊性も考えながら、商店街の振興を図る必要があると思う。

(会長) 各委員から発言をいただき、いくつかのキーワードが出された。

「SDGs」は重要なキーワード。これに関連した取組についての提案もあった。

「カーボンニュートラル」も産業にとって大きなキーワードである。

デジタル化が進展する中では、「DX（デジタルトランスフォーメーション）」も大事なキーワードで、その他の情報化の問題も含めて重要である。

「農商工連携」についても、産業育成の中で特に農業製品、工業製品あるいは伝統商品というのを創り上げてきたのは、農商工連携の中にあっただように思う。

また、「数値目標」について、複数の委員から意見があった。論拠を明確にするのは難しいものもあるが、理由が分かるようにしていただきたい。例えば、将来的に下がるのであれば、下がる理由が存在していて、それも量的に下がるのか、質的に下がるのかというのが見えるようにすべきである。

(副会長) 「川越ならでは」というところがもっと必要なのかなという気がする。具体的にどうというのはないが、盛り込んでいけたらいいのではないかと感じた。